

## 西伊豆健育会病院 医療連携室 相談員 神田純子

**功 績** コロナ禍で大きく落ち込んだ外来・入院の稼働を立て直すため、南伊豆地域や戸田方面へ積極的にアプローチし、入院患者の裾野を広げる活動をするとともに、毎月「外来かわらばん」を発行し、安心・安全な病院のアピールをし続け、4月・5月の落ち込み以降、大きく稼働を落とすことなくベッドコントロールが出来ている功績。

**推 薦 者** 医療連携室 室長 朝賀瑞乃

**推 薦 理 由** 伊豆全体で人口減少が起こっていることに加え、このコロナ禍で観光客が減少する中、広報誌の新規発行や、入院患者さんを広域から紹介して頂ける環境をつくるなど、昨年を上回る入院稼働を達成。どんなに苦しい状況でも諦めることなく前を向いてチャレンジし続け、病院運営に大きく貢献している神田を理事長賞に推薦致します。

### 内 容

---

神田は入職10年目の職員で、主に相談業務と入退院の調整業務を担当しています。帰国子女であり、曖昧さを嫌い、入職当初はストレートな物言いから、患者さんを思うがあまり他部署と衝突することもありましたが、現在はベッドコントロールの中心として無くてはならない存在となっています。

神田は今年度の京セラ様による理念研修で、病院理念と部署目標について今一度、しっかり向き合い、「地域の医療を守るためには、西伊豆健育会病院が存続する必要がある。そのために、相談員としての自分に出来る事は何か?」について真剣に考え、安定した患者数を常に保っていくことが必要だと考えました。人口減少の中、安定した患者数を保つためには範囲を拡げる必要があると考え、戸田や南伊豆方面の診療所や介護施設、支援センターに積極的に向いては当院の魅力をアピールし、毎週空床情報や電話などで連絡を欠かさないようにし、現在では新規患者の紹介もして頂けるようになりました。また、西伊豆・松崎町の事業所も自ら直接地域包括ケア病棟の運用について詳細に説明し、地域のベッドとして活用してもらうようお願いして回りました。

また神田は病院ブログや広報誌の作成を担当しており、外来かわらばんの作成も5月から手掛けて毎月発行し、病院での感染対策、自身を守る予防方法、研修医の紹介など、地域の皆さんが安心して病院を受診できるよう積極的に取り組みました。

伊豆全体で人口減少が起こっていることに加え、このコロナ禍で観光客が減少する中、近隣の病院も大変厳しい状況にあります。そんな中、入院患者さんを広域から紹介して頂ける環境をつくり、現在昨年を上回る入院稼働を達成できています。

どんなに苦しい状況でも諦めることなく前を向いてチャレンジし続け、病院運営に大きく貢献している神田を理事長賞に推薦致します。